

令和元年度消防機器の改良及び開発並びに消防に関する
論文に係る会長賞「最優秀賞」の受賞決定について

一般財団法人全国消防協会が主催する、「令和元年度消防機器の改良及び開発並びに消防に関する論文」に火災調査シミュレーションアプリ（以下、アプリという。）の開発者である当組合の消防本部予防課 火災調査係長 入村 宗と同主任清水 聡が応募した作品「火災調査シミュレーションアプリの開発及び全国的運用に見る効果」が消防機器の部において、全国130の応募作品中、最高位となる会長賞（最優秀賞）を受賞することになりました。

令和元年度消防機器の改良及び開発並びに消防に関する論文 会長賞

| 区分 | 賞 | 順位 | 作品名 | 作品番号 | 消防本部名 | 氏名 |
|------|------|----|---|--------------------------|----------------|-------------------------|
| 機器の部 | 最優秀賞 | ① | 火災調査シミュレーションアプリの開発及び全国的運用に見る効果について | 4 | 上越地域消防事務組合消防本部 | 入村 宗 清水 聡 |
| | 秀賞 | 2 | サイロ内海砂に埋没した要救助者に対する空気ポンベの圧力を利用した救出サポートシステムの開発 | 45 | 大阪市消防局 | 井村 誠 原田 裕 的場 一輝 |
| | | 3 | トリアージのスキルアップを可能にするサポートシート | 19 | 静岡市消防局 | 石村 大介 |
| | | 4 | 煙体験ゴーグルの考案について | 34 | 湖北地域消防本部 | 野洲 裕樹 北村 福将 |
| | | 5 | 原因追究困難事案から火災調査サポートアプリの開発へ | 44 | 大阪市消防局 | 二川原 博信 水口 靖仁 |
| | | 6 | レーザーライトを活用したアウトリガー張り出し位置の表示の考案 | 23 | 名古屋市消防局 | 光本 慎一 齋藤 育宏 |
| | | 7 | 救急はさみ用アタッチメントの考案について | 33 | 湖北地域消防本部 | 志賀 英夫 富士野 惠浄 |
| | | 優賞 | 8 | 応急手当普及員e-learningの開発について | 10 | さいたま市消防局 |
| | 9 | | 非常招集時における簡易型参集状況把握システムの構築 | 21 | 中濃消防組合消防本部 | 曳田 映二 |
| | 10 | | モールシステムを活用した消防活動用マルチシートの開発 | 35 | 東近江行政組合消防本部 | 藤田 隆行 東森 祐介 |
| | 11 | | 大規模火災時のミキサ一車補水支援器具の考案について | 30 | 金沢市消防局 | 大町 慶雄 山 綾介 |
| | 12 | | 一斗缶を活用した火災性状把握実験器具の開発（一斗缶ファイヤーコントロールボックス） | 64 | 那覇市消防局 | 中井 健太郎 |
| | 13 | | 雨から傷病者を保護するバックドアモールの開発について | 17 | 横浜市消防局 | 黒木 淳一 |
| | 14 | | 水面における要救助者救出資器材の考案 | 25 | 名古屋市消防局 | 新井 泰 雨森 孝志 大野 愛一郎 |
| | 15 | | 立坑酸欠事故時の空気供給システムの考案について | 42 | 大阪市消防局 | 井村 誠 的場 一輝 |
| | 16 | | バックアップロープ専用アタッチメントの考案について | 36 | 甲賀広域行政組合消防本部 | 吉川 真司 脇畑 武人 |



これは、昨年5月に受賞した「消防庁長官賞」に続く快挙です。

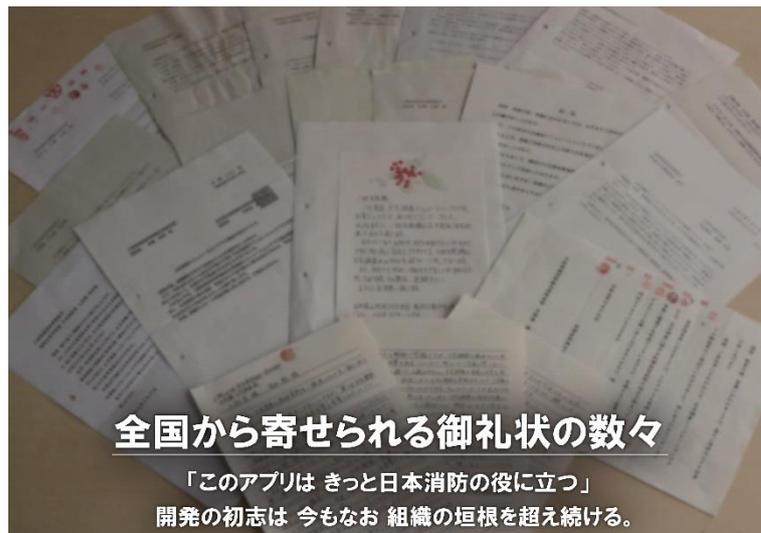
このアプリは消防職員が疑似体験を通して火災調査における経験値の向上を効率よく図れる新教材として開発したソフトであり、最大の特色は、設計・規格の段階からコンピューターグラフィックスを駆使し、実火災写真は一切使用せず、ストーリー、音楽、ゲームコーディネートなど外部委託などを行わず、著作権への配慮にも万全を期した完全オリジナル版であり開発者個人が有する技術により制作されている点にあります。



選考委員会においては、消防業務における利便性、性能、費用対効果、独創性、論旨のいずれもが秀逸しており、消防機器としての完成度の高さが評価され、最も優れた作品として最優秀賞に選ばれたものです。

このアプリは昨年6月以降、北海道から沖縄県まで、全国130の消防本部（局）や消防学校から依頼を受け、順次無償でデータを提供しています。アプリ体験者からの反響は、一様に自己研鑽の教育ツールとして、「あったらいいな」を体験でき、明らかに火災調査に対する意欲、知識、士気の向上が図られ、アプリ効果は絶大との言葉を頂戴しており、その可能性はさらなる発展を見せているところです。

火災調査業務における調査力の増進を図るため、人員と予算の実質的拡充と同等以上の効果をもたらすという基本理念に基づき開発されたアプリは、着実に消防行政全体の活性化と組織の垣根を超えた消防機関同士の連携の強化に資するものと確信しています。



私たちは、今後も市民の安全・安心を推進し負託に応えるため、歩みを止めることなく消防課題に対する挑戦を続けていきたいと思えます。

表彰式は、令和2年6月2日、広島県広島市で開催される全国消防長会内で執り行われ、最優秀賞受賞者の発表が併せて行われます。